

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0173800228		
法人名	合資会社富川グロリアホーム		
事業所名	グループホーム 富川ヒカルホーム		
所在地	沙流郡日高町富川西2丁目9番3号 (電 話) 01456-2-2836		
評価機関名	(有) ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地		
訪問調査日	平成19年12月13日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13人, 非常勤 7人, 常勤換算	10.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

(4) 利用者の概要 (12月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	0	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	5名
要介護5	7名	要支援2	0
年齢	平均 87.7 歳	最低 63 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富川駅前クリニック、土井歯科医院、日高町立国保病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の負担を少しでも軽減させるため、ほかに見られない低廉な入居料が設定されるなかで、利用者の介護度が高い状況下でサービスの質を高める努力が懸命に続けられているホームです。こうした努力を支えているのは、訪問診療医であるオーナーの手厚い医療支援、災害時の発電装置を住民と共用を考慮するなどホームが果たす地域への貢献、また、家族の理解であろうと推察できます。今年の初めにホームの移転を行ない、利用者が安心して地域のなかで暮らしてゆけるホーム作りの今後に、大きな期待が寄せられています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で改善の指摘事項についてはミーティングなどで話し合い、危険な物品の収納、事故に関する再発防止への取り組み、活動意欲を触発する物品の件など、改善が認められました。食事を楽しむことのできる支援で職員も一緒に食事をする件では、全介助を要する利用者が多い中では難しい面もあるようです。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は、評価項目の細部にわたる項目について職員とともに検討するため、早い時期から自己評価をしてもらい、3回の検討会議を経るなど、自己評価への精力的な取り組みが行なわれていました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の内容は、地域の方々の暖かい配慮が伝わってきます。災害時への対応の必要性を協議し、緊急連絡網を作成してくれました。また、避難訓練にも参加するなど会議での協議内容が実現されています。今後は、自己評価及び外部評価の取り組みを議題として、ホームのサービスの向上に貢献するよう期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月作られ家族のもとに送られている「ヒカリ通信」で、利用者の状況やホームでのできごとなどが細やかに報告されています。入居料の支払いをホーム窓口へ持参願うなど、家族との面談の機会を多くすることにより家族の意見、要望、苦情を聞きながら、ホームの運営反映するよう努めており、今後も家族との絆を大切にしたい取り組みを期待します。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し行事には積極的に参加、また、緊急時の避難訓練などを通して、地域とのお付き合いを大切にして、利用者が地域とともに暮らしてゆく関係の構築ができています。今後計画されている園芸療法は、利用者ばかりでなく地域の住民参加により豊かな地域社会作りとなるもので、その取り組みに大きな期待をするものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	既に、地域密着の理念にもとづいた運営がされており、利用者がより地域の中で豊かな暮らしができるよう、理念の改定を含め検討がされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各職員の名刺に理念が印刷されており、ミーティングで確認しあうなど、常に身近なものとして日々の取り組みがされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在地に移設されて間もない中で、地域でのお付き合いは深まっています。地域で行なう清掃活動を行なうほか、ホーム主催の夏祭りの盆踊りなどに地域の住民も大勢参加されるなど暖かな交流が続けられています。	○	ホームでは、移設されたホームが地域に密着するため、認知症に係わる相談所の開設と園芸両方を取り入れ住民の参加を呼び掛けるなど、より一層の交流を図る計画があり、その取り組み及び成果に期待をします。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で改善の指摘を受けた項目については、直ぐに改善の着手ができないものを除き、積極的な改善が見られます。今回の自己評価も職員がすべて参画し3回もの検討会を要して作りあげるなど、評価に対する取り組みは大きいものがあります。		

日高町 グループホーム 富川ヒカルホーム

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの移設の事情から、会議の回数は多くはありませんが、ホーム側の理解を求める説明と住民代表の温かな理解と交流が議事録から読み取れます。火災などの非常時に際しての連絡網も住民の方々が作成してくれるなど、利用者の暮らしの安全に大きく貢献しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉協議会が主催する出前勉強会に積極的な協力、また、参加してサービスの質の向上に努めるなど連携を深めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子を知らせる「ヒカル通信」は毎月作られて、個別の状況も手書きで知らせています。家族が入居料などの支払いにはホームへの出向いてもらうなどの方策により、面談の機会を増やし報告を密にしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」の設置はありますが、あまり利用されていません。管理者と職員は電話のほか、家族の訪問を利用してホームの運営に役立つ意見、要望、苦情を聞くように努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあまりない状況下ですが、異動があった際には利用者へのダメージを極力避けるよう努めるようにしています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会は、職員が外部研修の報告を兼ねて行なわれています。また、運営者は研修会情報を的確に伝えるほか、介護士、ケアマネジャーの資格取得を応援するため受験料の付与を行なうなど職員の質の向上に配慮がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系のデイサービスの職員と合同で研修を行うほか、地域のグループ協議会に加入して、ほかのグループホームを訪問するなど交流を図りながらサービスの質の向上を図る努力が見られます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設以来の利用者が多い状況ですが、新規の入居に際しては本人及び家族にはホーム見学をしてもらうなど事前に理解をして頂こう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との暮らしの中で、喜怒哀楽をともにしながら利用者から学んだり支えあう関係が築かれています。多忙時でも利用者の会話で癒される場面もあり、ゆったりとした時間の流れに引き戻してくれます。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の中には、農家出身者が多いため土に触れることで思いを喚起するなど努めていますが、介護度が高く利用者一人ひとりの訴えの把握が困難となっているようです。アセスメントの記載内容も介護主体が目立ちます。	○	利用者の思いや意向の把握は、時を追うごとに難しくなってきますが、狭い意味での介護のアセスメントに留まらず、生活を支えるアセスメントへの取り組みが期待されますし、その中から思いや意向の把握ができるスキルの向上を期待します。
暮らしのサポート					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティングには、看護師であるケアマネージャーが同席し、職員間で活発なアイデアや意見交換が行なわれています。この場には家族はいませんが、家族の訪問時に話された意見や要望を議題に供しながら利用者本位の介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の場合、介護計画の見直しは3ヵ月をスパンとして行なわれ、利用者の状況変化にあつては随時見直しが図られています。この場合も家族と相談、報告を欠かさずに行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特殊な医療機関への送迎、また、買物などホーム車を使用した支援が行なわれています。少し遠方の家族が交通が不便である場合は送迎も支援しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者は、訪問診療医をしており、利用者のための訪問診療を毎日行なっています。また、看護職員もおり細やかな健康管理や医師との連携ができています。歯科医も訪問治療を行なって利用者の口腔ケアに役立てています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護度が高い利用者が多く生活をする中で、担当医及び家族とは時折話し合っておりますが、踏み込んだ話には至っておらず、指針などの確認書の取り交わしもされてはいません。	○	本人が重度化した場合の対応について本人及び家族、かかりつけ医、そしてホームが相互の理解、意向の統一を図ることが重要とされています。重度化に伴う意思の確認書を早期に作成するよう取り組みを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないように、言葉掛けや対応には最大限配慮がされていますが、会報に掲載の写真への承諾書がない、及び面会受付簿の記載に問題が残るようです。また、トイレのカーテンは個人の尊厳にも触れる大きな問題でもあります。	○	写真及び家族の氏名などは、一層の気配りへの取り組みが望まれます。また、トイレのカーテンは家庭的な雰囲気を壊しかねず、また、プライバシーの確保、利用者の尊厳にも触れるものと憂慮されますので、アコーディオンカーテンなどの改善への取り組みを要望します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に日々の暮らしの支援がされていますが、介護度の高い利用者が多いため希望の把握には難しい状況にあるようです。家族からの情報や生活暦などを織り交ぜながら誘導して、できるだけその人らしい暮らしが支援できるよう努力されています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員がともに食事をする事は、前回の評価でも改善を要する事項でしたが、現実には全介助を要する利用者が多いなかで一緒に食事は困難であることを知らされました。それでも利用者の間に座りながら左右の食事介助をしつつ、明るく話しかけ少しでも楽しい食事をと奮闘する職員の姿勢を見ることができました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望など、自己決定が困難な利用者が多く、ホームでは少なくとも週2回の入浴を目標として支援しています。入浴を拒絶の場合は翌日へと変更するなど強制は避けるように配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴や自分の残存能力を引き出しながら、楽しみごと、役割を担ってもらうなど支援が行なわれています。これからは園芸療法を利用した自立への機会を探りながら支援を行なう予定となっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームには外気浴ができる中庭、テラスがあり暖かな陽射しを受けたひと時を過ごしています。夏季には散歩が日常的に行なわれ、また、ホームのリフト付きマイクロバスで近隣の市町村へドライブを楽しんでいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は、昼間の施錠はしておりませんが、利用者のひとりが不穏状態の時には止むなく一時施錠がされているようです。日常的には職員の見守りにより施錠の必要はなく、夜間のみ施錠をしています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害の危険を避けてのホーム移設であり、災害には細心の配慮がされています。定期的な避難訓練及び緊急連絡網の整備、また、緊急時の発電装置の地域利用など、地域の住民と一体となった取り組みがされていますが、人手が少ない夜間の避難には危惧される点が多いようです。	○	夜間を想定した避難のあり方、地域住民の協力など、具体的な取り決めによる訓練が必要と思慮し、その取り組みに期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取は利用者の状況によって若干異なるものの、必要な水分確保への細やかな配慮がされています。食事も刻み、とろみ、お粥などそれぞれ異なりますが栄養のバランス及び食欲が増すよう気配りがされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間及び食堂は兼用で広い空間ではありませんが、生活感や季節を感じさせる配慮が行き届いています。トイレの便器が若干高いことを指摘しましたが、即刻業者を入れた改良に着手するなど居心地の良い暮らしへの素早い対応がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族との写真、賞状などが賑やかに飾られ、また、調度品も沢山持ち込まれており、安心した暮らしの空間となっています。各居室に設置の洗面台は少し高く、これからの利用者の状況によっては改善が必要となると考えられます。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。